

5.2 河川管理との関わり（河川の自然度・健全度）

ここでは、河川の自然度・健全度や河川管理との関わりが考えられるカヤネズミ、エゾヤチネズミ、カジカガエルなどの確認状況を整理しました。

【川らしいハビタット由来の種の確認状況】

（哺乳類調査）

• カヤネズミは7河川すべてで確認

高茎のイネ科やカヤツリグサ科草地に営巣するカヤネズミは、高水敷の植生変化の影響を受ける可能性があります。そこで、カヤネズミの確認状況の変化について整理しました。

カヤネズミは、今回とりまとめを行った7河川すべてで確認されました。

分析対象とした河川数（自然分布域内の調査河川数）に占めるカヤネズミが確認された河川数の割合からみると、1巡目調査から3巡目調査にかけて増加傾向にあり、4巡目調査は調査未実施の河川もありますが、ほぼ横ばいです。調査地区数の割合でも、ほぼ横ばいの傾向がみられました。

北海道にのみ生息するエゾヤチネズミは、今回の調査対象河川に自然分布域である北海道地方の河川が含まれていなかったため、確認された河川はありません。1巡目調査から3巡目調査にかけて北海道地方のすべての河川で確認されました。調査未実施の河川もありますが、4巡目調査でもすべて確認されています。調査地区数の割合でみると、4巡目調査では調査未実施の河川もありますが、やや減少傾向がみられました。

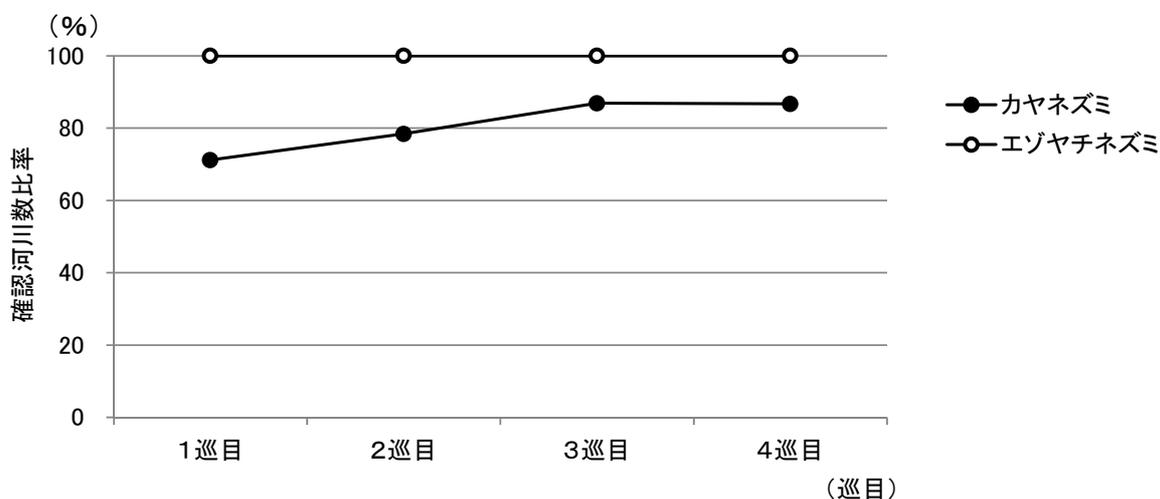
（資料掲載：5-11～5-14ページ、5-45～5-46ページ）

1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目調査 〈74 河川〉 (59 河川)	2巡目調査 〈118 河川〉 (97 河川)	3巡目調査 〈122 河川〉 (99 河川)	4巡目調査 〈112 河川〉 (90 河川)
カヤネズミ	42 河川 〔71.2〕	76 河川 〔78.4〕	86 河川 〔86.9〕	78 河川 〔86.7〕

1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目調査 〈74 河川〉 (8 河川)	2巡目調査 〈118 河川〉 (12 河川)	3巡目調査 〈122 河川〉 (13 河川)	4巡目調査 〈112 河川〉 (13 河川)
エゾヤチネズミ	8 河川 〔100〕	12 河川 〔100〕	13 河川 〔100〕	13 河川 〔100〕



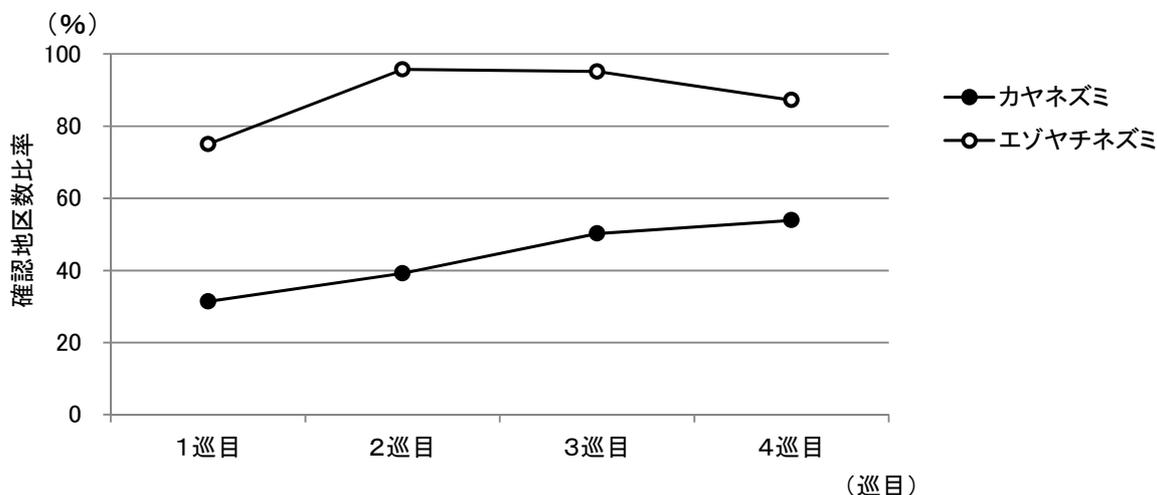
- ※ 確認河川数の比較は、調査実施全河川のうち、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～3巡目調査のデータは、調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。
- ※ 〈 〉内は調査対象河川数を示す。
- ※ ()内は分析対象とした河川数（自然分布域内の調査河川数）を示す。
- ※ []内は分析対象河川数に対する確認河川数の割合 (%)を示す。
- ※ 分析対象河川は自然分布域内の調査実施河川を対象とした。
- ※ カヤネズミは、亜種ホンシュウカヤネズミとシコクカヤネズミを含む。

1～4巡目調査の確認地区数の比較

種類	1巡目調査 〈545地区〉 (423地区)	2巡目調査 〈831地区〉 (674地区)	3巡目調査 〈874地区〉 (691地区)	4巡目調査 〈721地区〉 (566地区)
カヤネズミ	133地区 〔31.4〕	264地区 〔39.2〕	347地区 〔50.2〕	305地区 〔53.9〕

1～4巡目調査の確認地区数の比較

種類	1巡目調査 〈545地区〉 (52地区)	2巡目調査 〈831地区〉 (70地区)	3巡目調査 〈874地区〉 (82地区)	4巡目調査 〈721地区〉 (86地区)
エゾヤチネズミ	39地区 〔75.0〕	67地区 〔95.7〕	78地区 〔95.1〕	75地区 〔87.2〕



- ※ 確認地区数の比較は、調査実施全河川のうち、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～3巡目調査のデータは、調査実施全地区のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。
- ※ 〈 〉内は調査対象地区数を示す。
- ※ ()内は分析対象とした地区数(自然分布域内の調査地区数)を示す。
- ※ []内は分析対象地区数に対する確認地区数の割合(%)を示す。
- ※ 分析対象地区は自然分布域内の調査実施河川を対象とした。
- ※ カヤネズミは、亜種ホンシュウカヤネズミとシコクカヤネズミを含む。

カヤネズミは、高茎のイネ科やカヤツリグサ科草地に営巣するため、高水敷の河川環境の変化に影響を受ける可能性があります。

カヤネズミは、本州の太平洋側では宮城県南部以南、日本海側では新潟県以南、四国、九州、隠岐、淡路島、豊島、因島、対馬、天草諸島下島に主に分布します^{注1)}。1 巡目調査から今までの河川水辺の国勢調査では、太平洋側の宮城県名取川以北、日本海側の新潟県（北陸）以北で、確認された河川はありません。

調査実施河川のうち分析対象とした河川数に占める確認された河川数の割合からみると、1 巡目調査から 3 巡目調査にかけて増加傾向にあり、4 巡目調査は調査未実施の河川もありますが、横ばい傾向です。

確認された調査地区数の割合からみると、1 巡目調査から 3 巡目調査までは増加傾向ですが、3 巡目調査から 4 巡目調査（平成 26 年以前）にかけては、ほぼ横ばい傾向です。

カヤネズミが生息しない北海道については、草原状の環境で、排水のよい湿潤地を好み、河岸、排水溝脇の斜面に多く見られ、密生した樹林には生息しないといわれるエゾヤチネズミ^{注2)}に着目して分析しました。

エゾヤチネズミは、北海道本島、利尻島、礼文島、大黒島、天売島に主に分布します^{注2) 注3)}。

エゾヤチネズミについて、北海道地方における 1～4 巡目調査の確認調査地区の分布地図をみると、確認調査地区は下流・中流部に集中し、未確認調査地区（白丸）はその上流部に位置していることがわかります。

今回（平成 26 年）の調査実施河川には、エゾヤチネズミの自然分布域である北海道地方の河川が含まれていなかったため、本種が確認された河川はありませんでした。しかし、確認された河川数の割合でみると、1 巡目調査から 3 巡目調査にかけて自然分布域である北海道地方のすべての河川で確認されています。4 巡目調査では調査未実施の河川もありますが、今までの調査実施済み河川ではすべて確認されました。

また、確認された調査地区数の割合でみると、4 巡目調査で調査未実施の河川もありますが、2 巡目調査から 4 巡目調査にかけては、やや減少傾向がみられました。

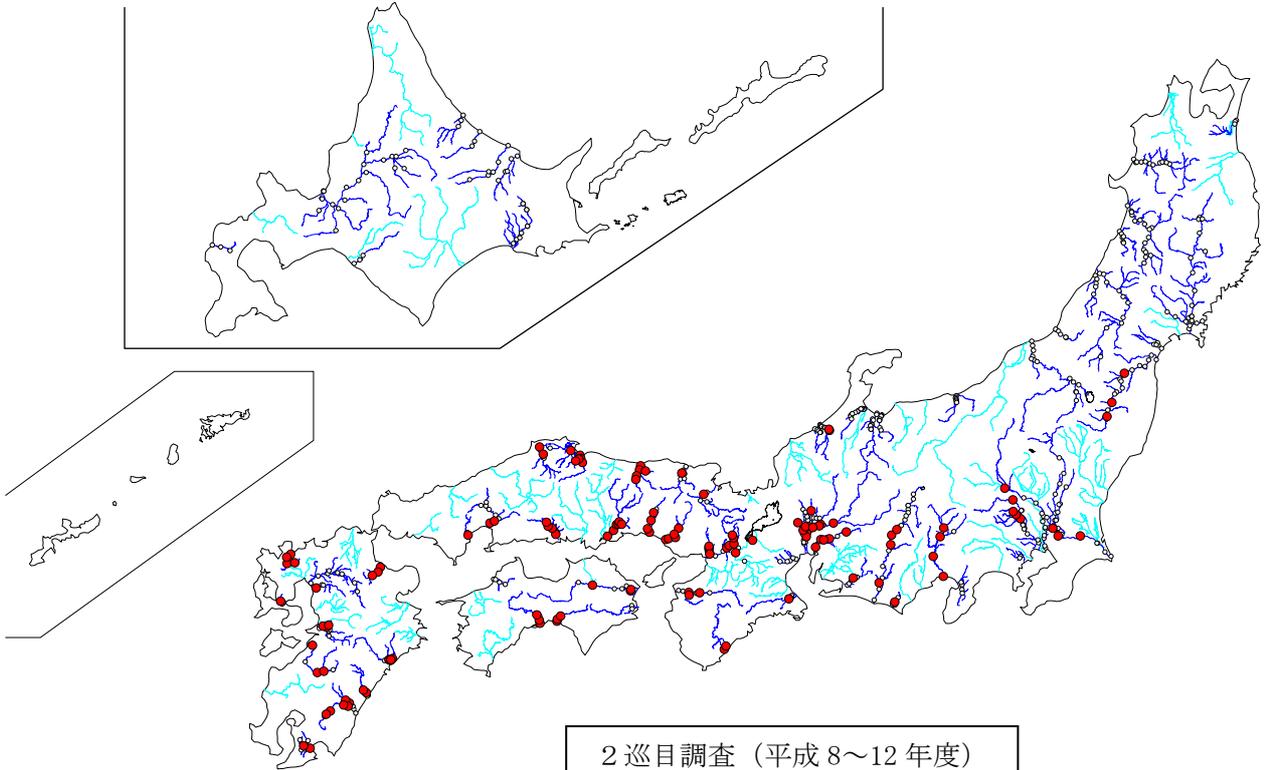
このように、エゾヤチネズミの確認結果から、北海道地方の河川は、原野・草原状態で湿潤地の河川敷の環境が多いことが推測されます。

注 1) 出典：日本の哺乳類 改訂 2 版. 東海大学出版会.

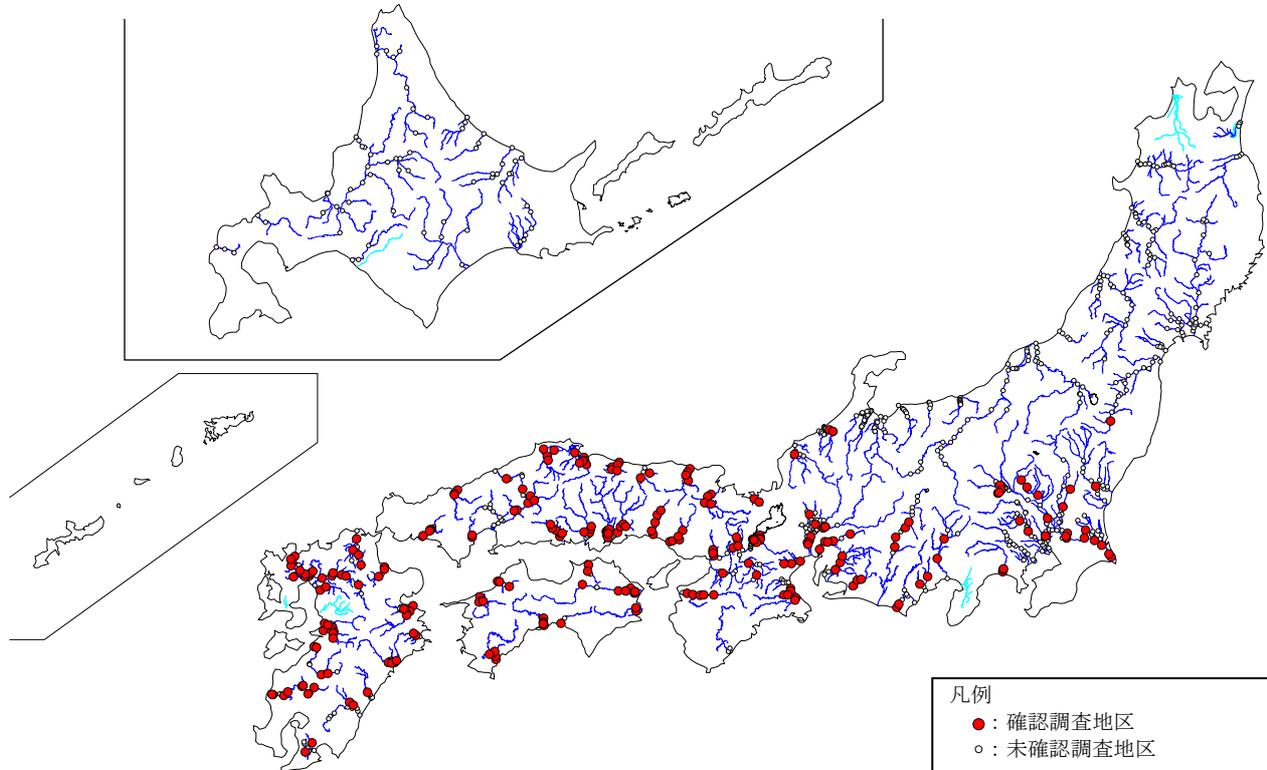
注 2) 出典：北海道産野ネズミ類の研究. 北海道大学図書刊行会.

注 3) 出典：日本の哺乳類. 東海大学出版会.

1 巡目調査（平成 3～7 年度）



2 巡目調査（平成 8～12 年度）



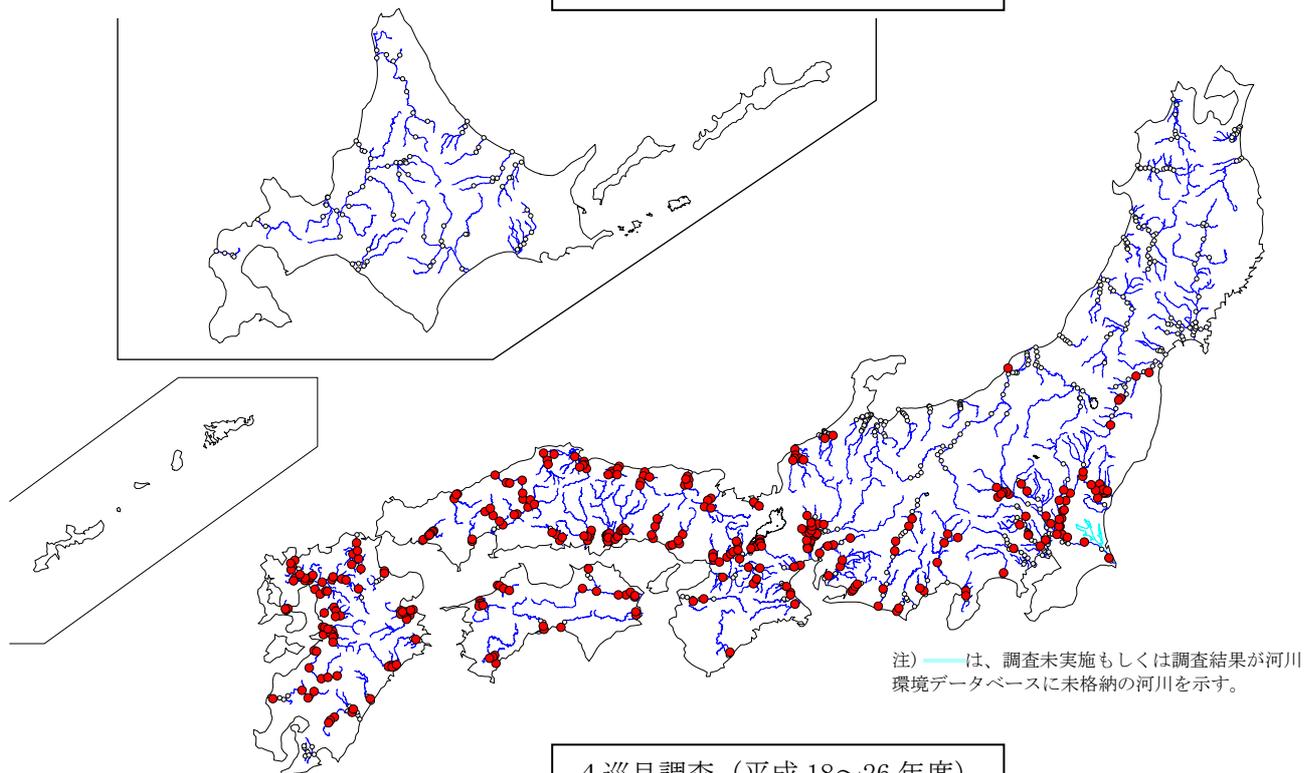
凡例

- ：確認調査地区
- ：未確認調査地区

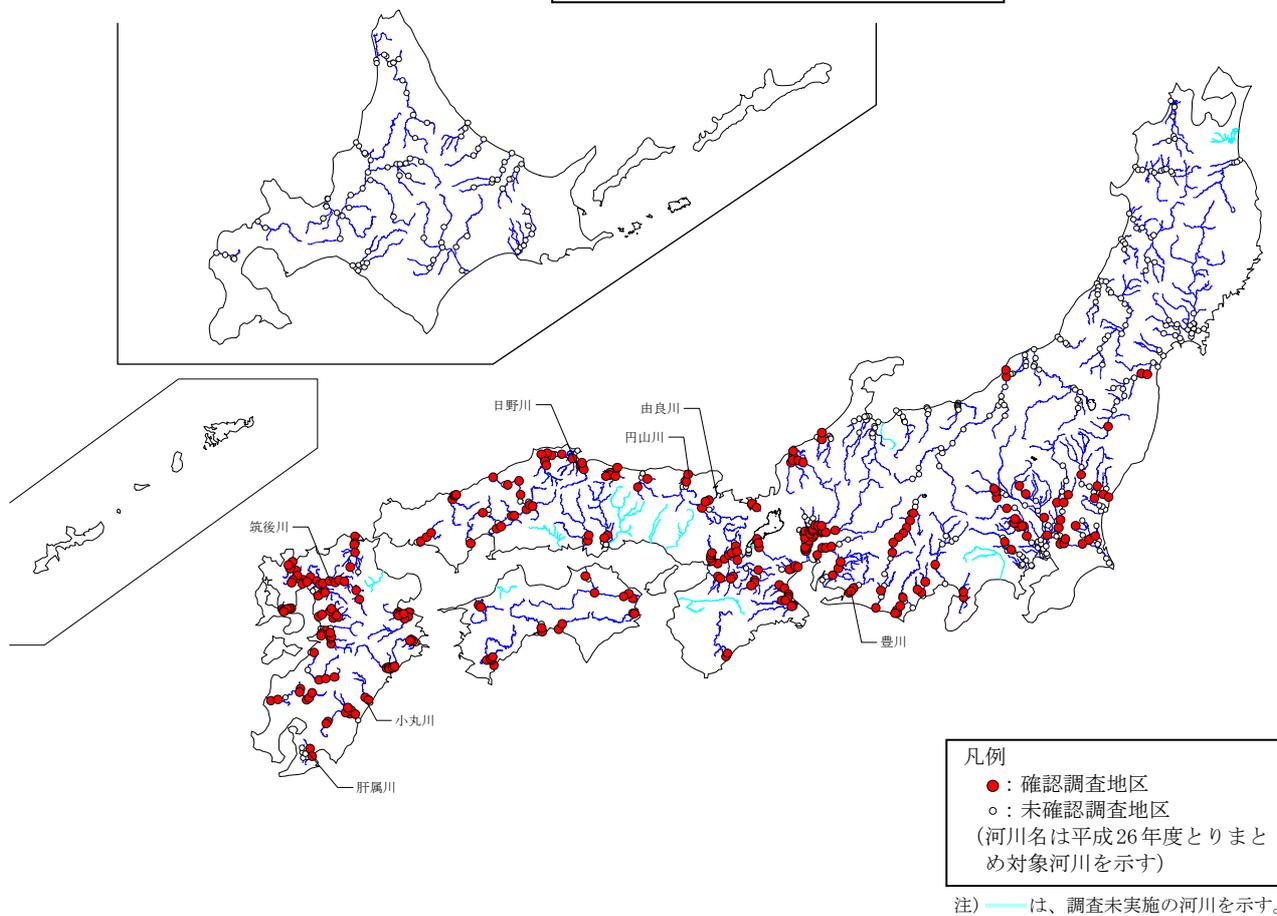
注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

カヤネズミの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査 (平成 13～17 年度)

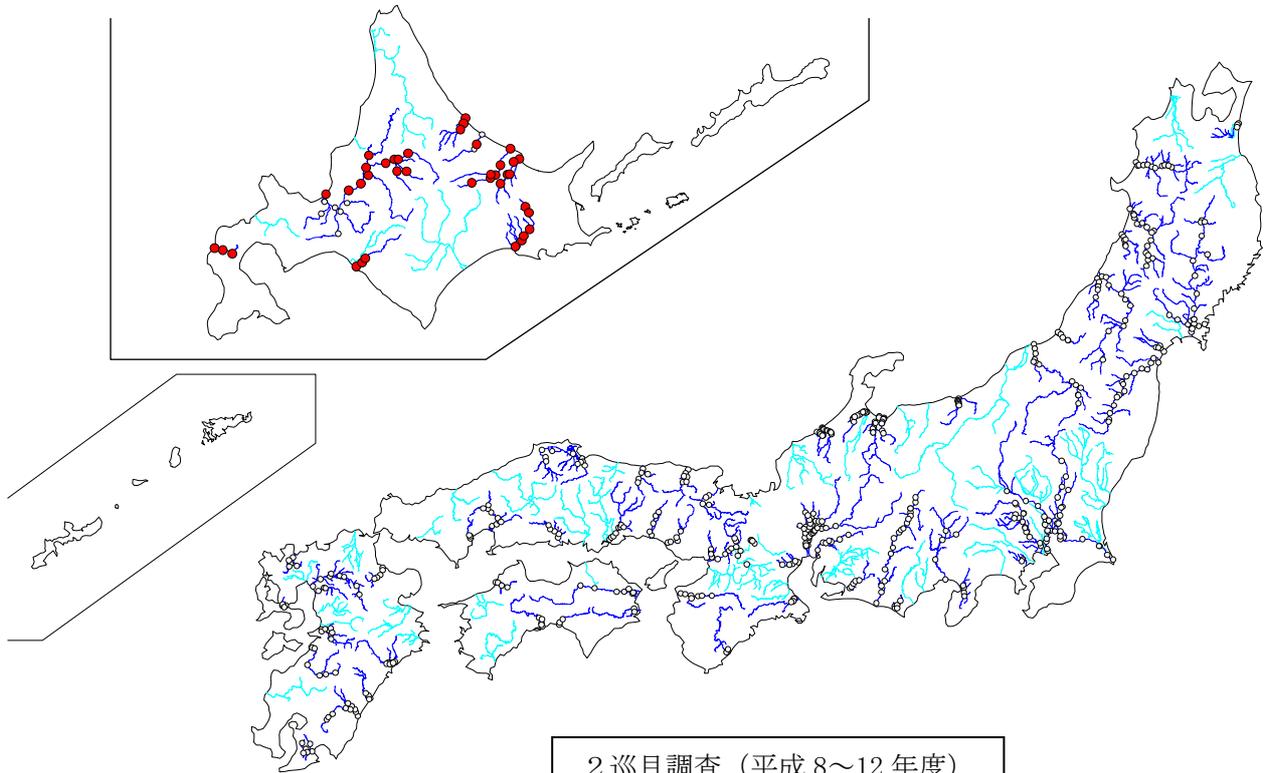


4 巡目調査 (平成 18～26 年度)

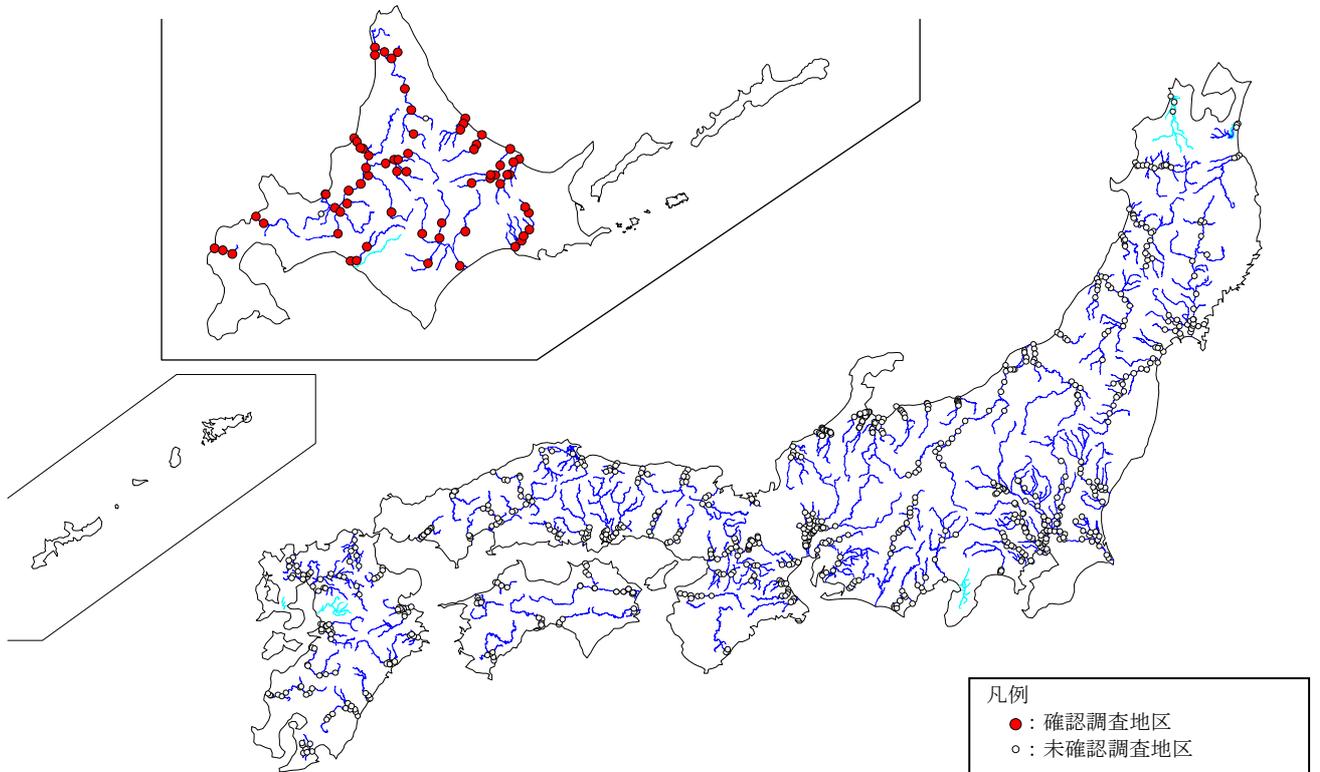


カヤネズミの確認された地域 (3 巡目調査、4 巡目調査)

1 巡目調査（平成 3～7 年度）

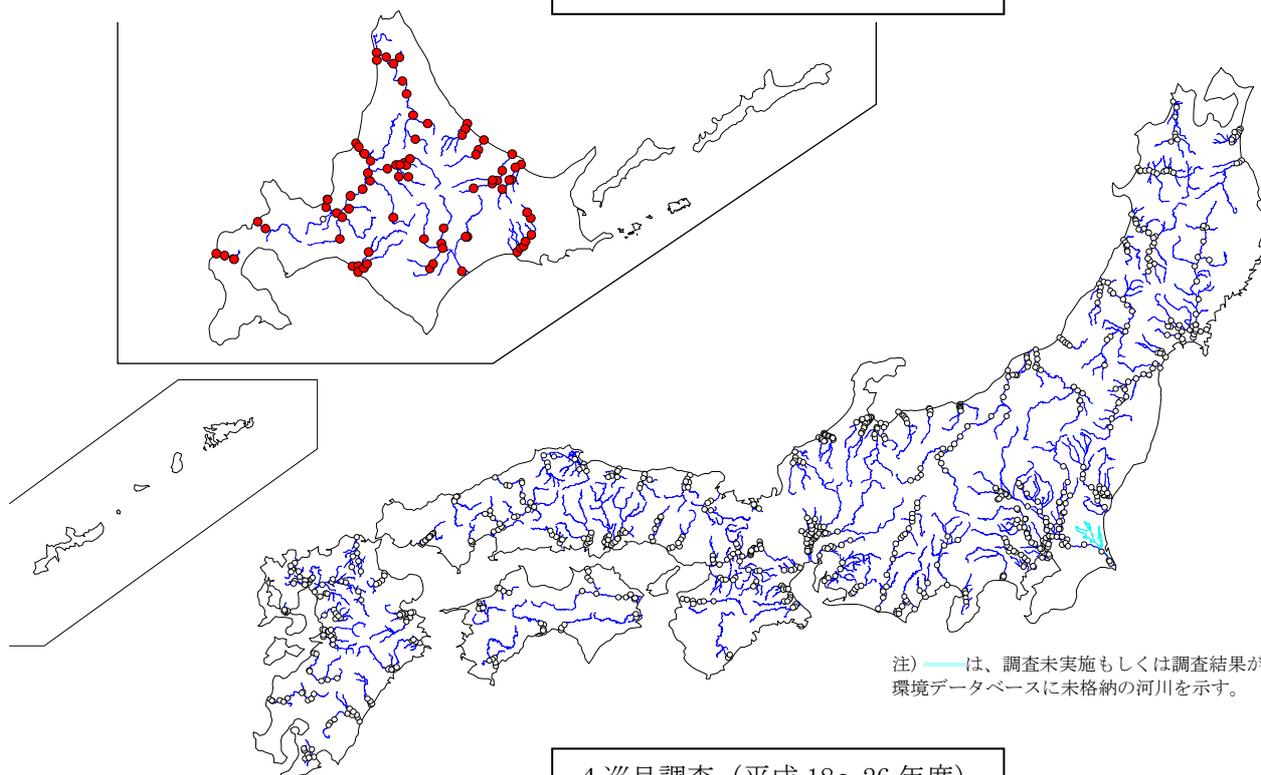


2 巡目調査（平成 8～12 年度）

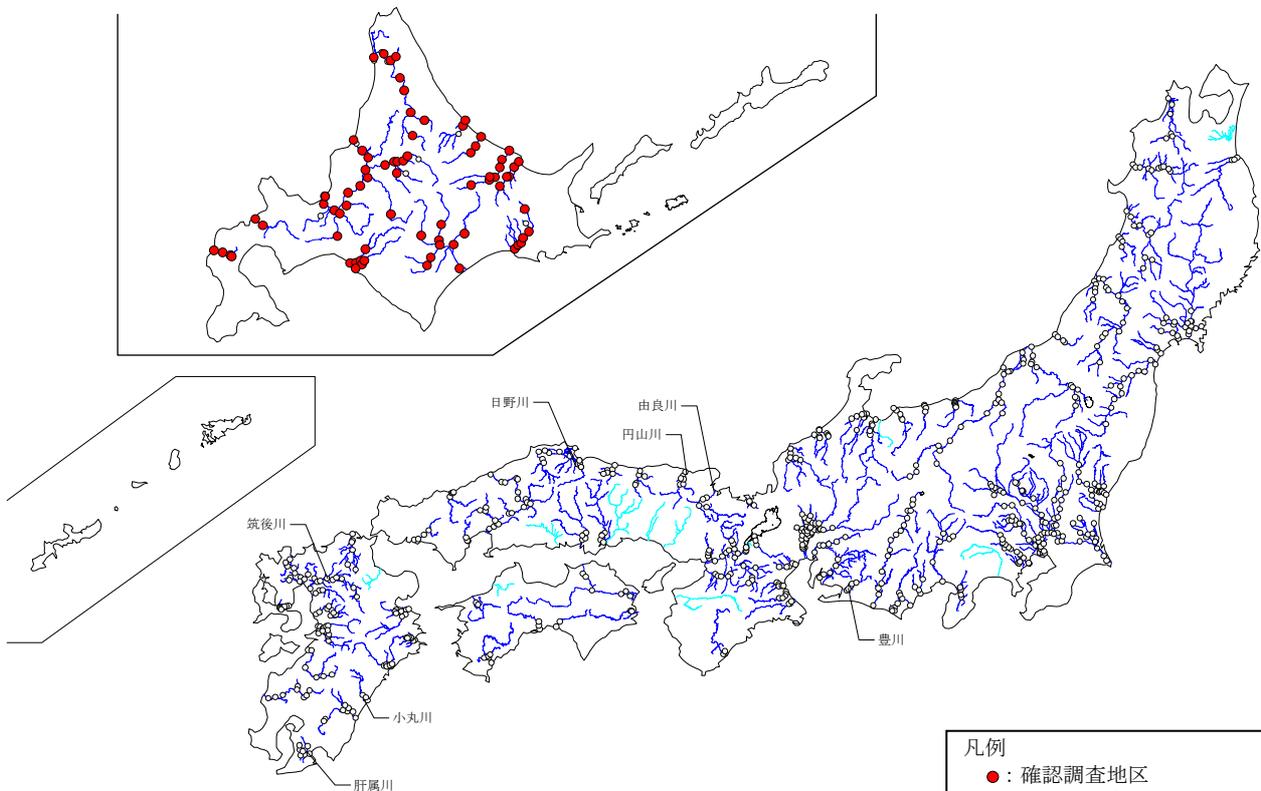


エゾヤチネズミの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査 (平成 13～17 年度)



4 巡目調査 (平成 18～26 年度)



エゾヤチネズミの確認された地域 (3 巡目調査、4 巡目調査)

● カジカガエルを近畿地方の円山川、九州地方の小丸川、肝属川で初めて確認

カジカガエルは本州、四国、九州に分布し、比較的川幅が広くて開けた溪流にすみ、流れの石の下に卵を産みます。このため、河川環境の変化によって、生息状況が影響を受けると考えられます。

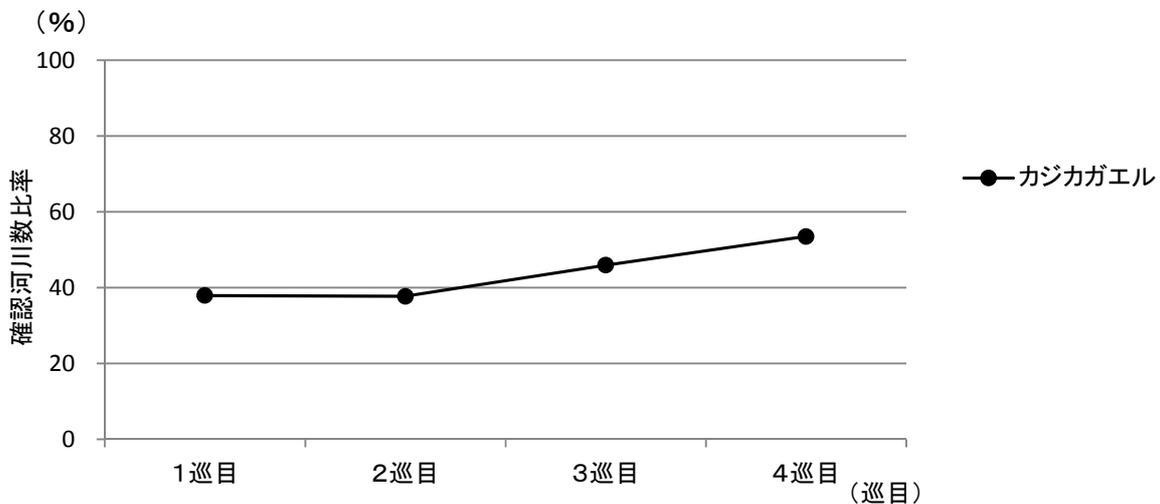
今回とりまとめを行った7河川はいずれもカジカガエルの自然分布域内で、中部地方の豊川、近畿地方の円山川、中国地方の日野川、九州地方の筑後川、小丸川、肝属川の6河川で確認されました。このうち、近畿地方の円山川、九州地方の小丸川、肝属川では、今回のとりまとめで初めて確認されました。

分析対象とした河川数（自然分布域内の調査河川数）に占めるカジカガエルが確認された河川数の割合は、2巡目調査から増加傾向がみられました。

(資料掲載：5-17～5-18ページ、5-45～5-46ページ)

1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目調査 〈74河川〉 (66河川)	2巡目調査 〈118河川〉 (106河川)	3巡目調査 〈122河川〉 (109河川)	4巡目調査 〈112河川〉 (99河川)
カジカガエル	25河川 〔37.9〕	40河川 〔37.7〕	50河川 〔45.9〕	53河川 〔53.5〕



- ※ 確認河川数の比較は、調査実施全河川のうち、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～3巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。
- ※ 〈 〉内は調査対象河川数を示す。
- ※ ()内は分析対象とした河川数（自然分布域内の調査河川数）を示す。
- ※ []内は分析対象河川数に対する確認河川数の割合（%）を示す。
- ※ 分析対象河川はカジカガエルの自然分布域内の河川を対象とした。

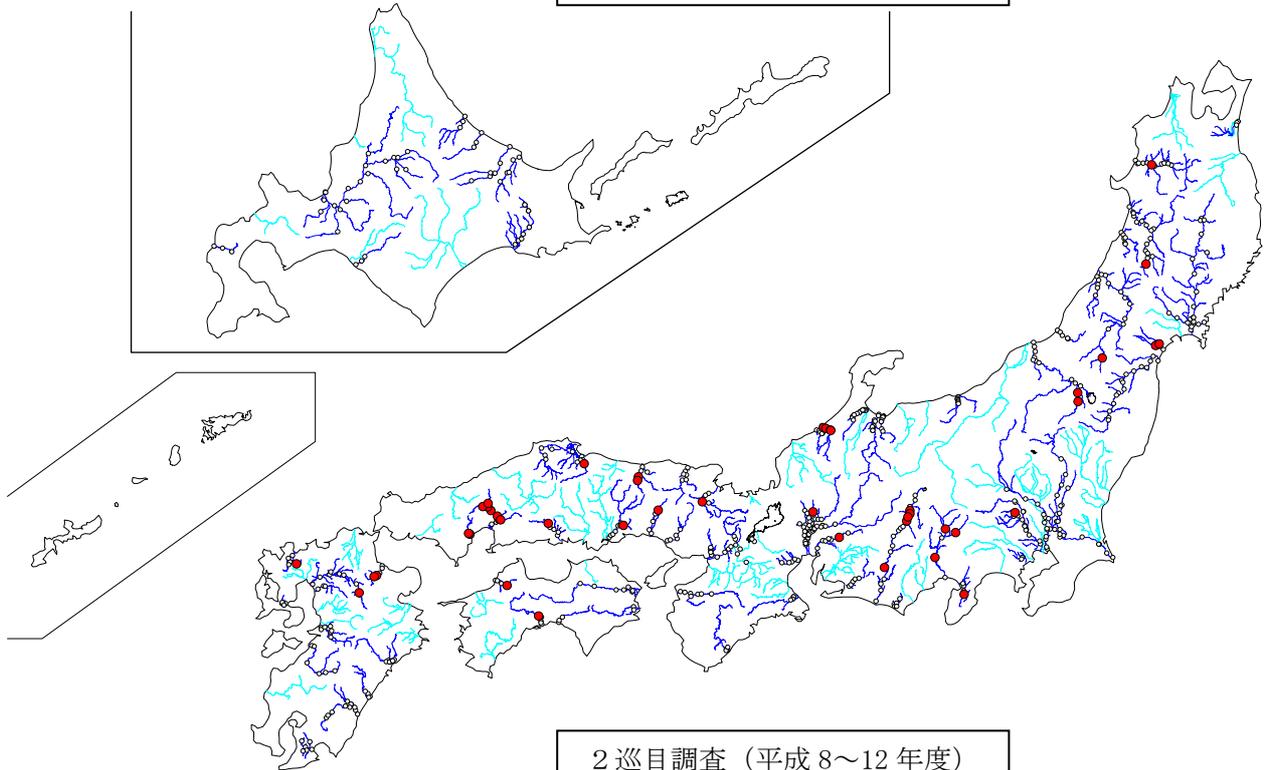
カジカガエルは本州、四国、九州に分布し、比較的川幅が広くて開けた溪流と周辺の樹林にすみ、溪流中の石の下に卵を産みます^{注1)}。このため、河川環境の変化によって、生息状況が影響を受けると考えられます。

今回のとりまとめでは、7河川のうちカジカガエルの自然分布域は7河川でした。そのうち、中部地方の豊川、近畿地方の円山川、中国地方の日野川、九州地方の筑後川、小丸川、肝属川の6河川で確認されました。このうち、近畿地方の円山川、九州地方の小丸川、肝属川では、今回のとりまとめで初めて確認されました。

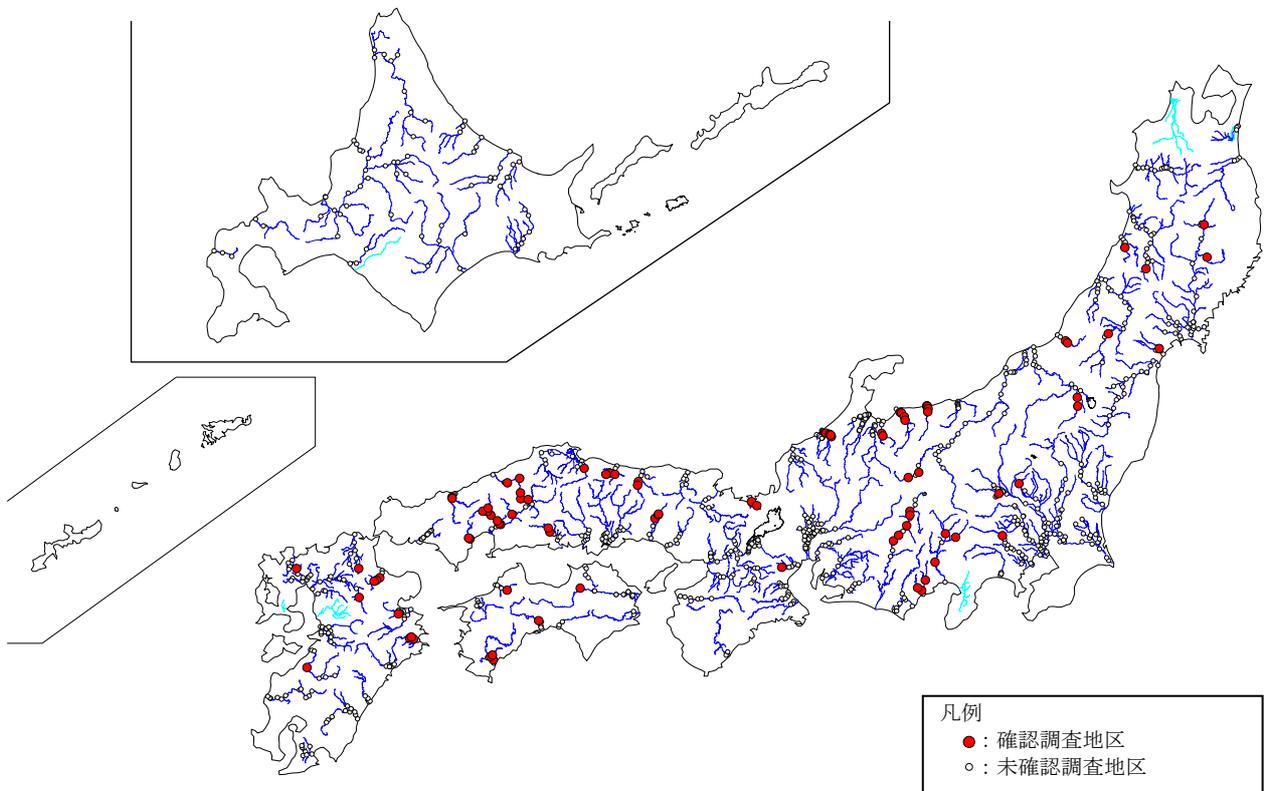
調査実施河川のうち分析対象とした河川数に占める確認河川数の割合は、2巡目調査から増加傾向がみられました。

注1) 出典：日本カエル図鑑. 文一総合出版.

1 巡目調査（平成 3～7 年度）



2 巡目調査（平成 8～12 年度）

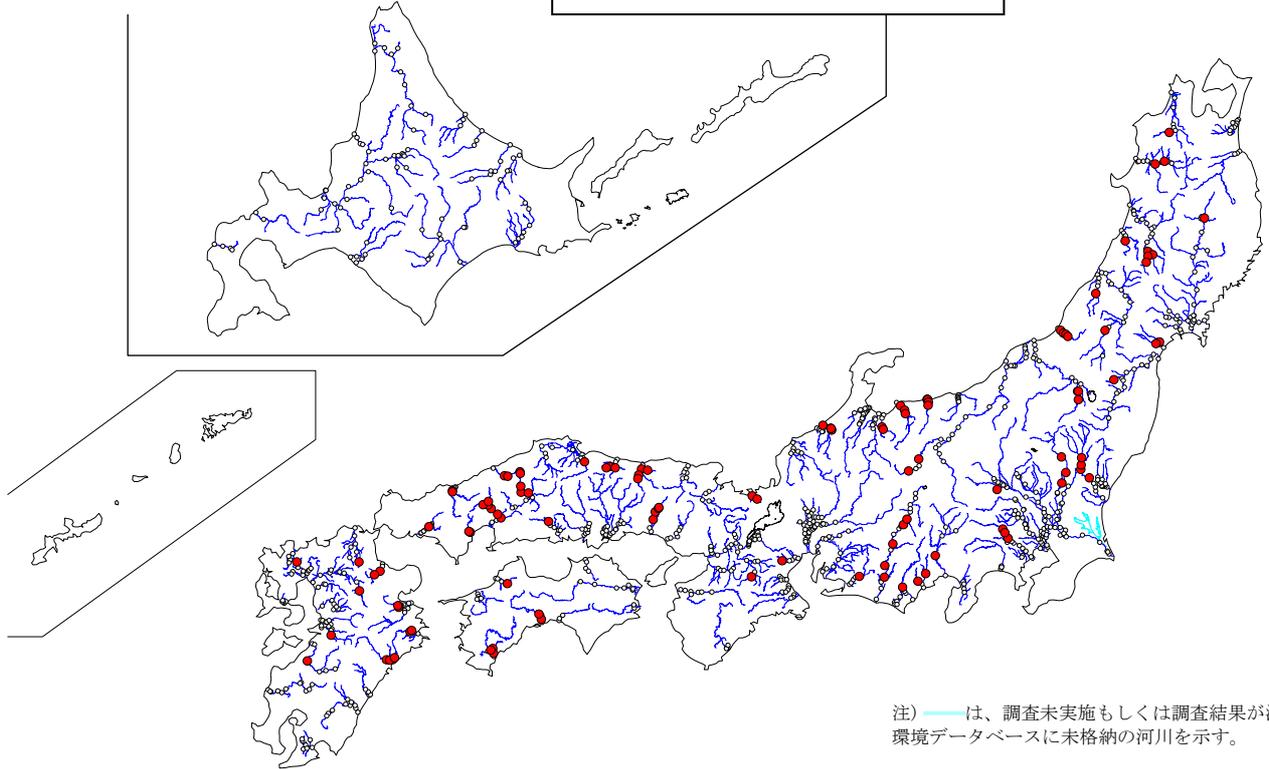


- 凡例
- : 確認調査地区
 - : 未確認調査地区

注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

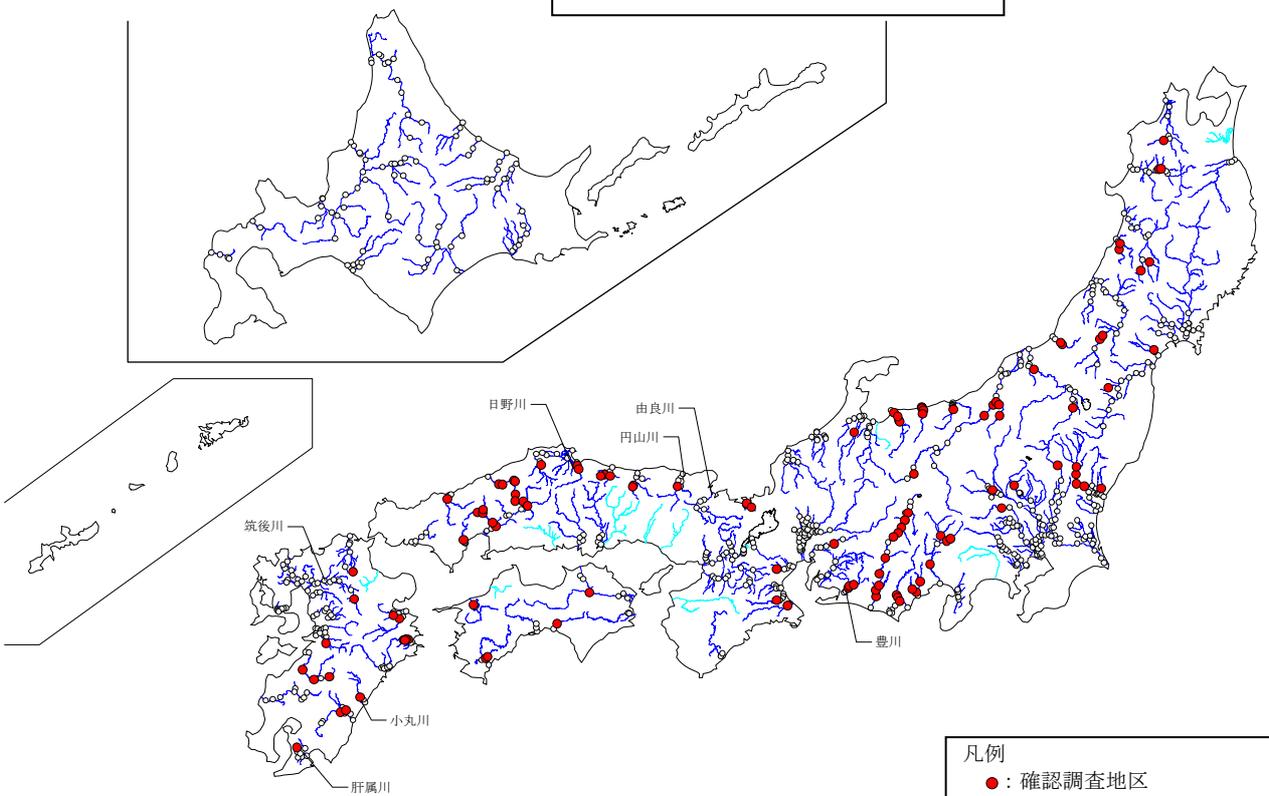
カジカガエルの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3巡目調査（平成13～17年度）



注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

4巡目調査（平成18～26年度）



- 凡例
- : 確認調査地区
 - : 未確認調査地区
(河川名は平成26年度とりまとめ対象河川を示す)

注) 〓は、調査未実施の河川を示す。

カジカガエルの確認された地域（3巡目調査、4巡目調査）